

令和2年度

東京大学推薦入試学生募集要項

出願期間：令和元年11月1日（金）～11月6日（水）



目 次

I	東京大学推薦入試のアドミッション・ポリシー	1
1	東京大学の使命と教育理念	1
2	期待する学生像	1
3	推薦入試の基本方針	1
II	令和2年度推薦入試実施日程	2
III	出願に当たっての注意事項	3
1	本学一般入試（前期日程）との併願について	3
2	他の国公立大学との併願について	3
3	大学入試センター試験について	3
4	提出書類・資料について	3
5	後期課程への進学について	4
6	障害等のある入学志願者について	4
IV	出願資格	4
V	募集人員	4
VI	推薦要件等	5
VII	入学者選抜方法	5
1	大学入試センター試験の受験を要する教科・科目	5
(1)	法学部，経済学部，文学部，教育学部，教養学部	6
(2)	工学部，理学部，農学部，薬学部，医学部，教育学部，教養学部	7
2	各学部の面接等の日程と会場	8
VIII	各学部の教育研究と推薦要件・面接方法等	8
1	各学部の教育研究	8
2	各学部の推薦要件・面接方法等	8
IX	出願期間・出願の流れ等	9
1	出願期間	9
2	出願の流れ	9
3	注意事項	11
X	提出書類・資料	11

XI	合格者発表	13
1	第1次選考の結果発表・通知	13
2	最終合格者発表・通知	13
3	個人別成績の通知	13
XII	入学手続	14
XIII	入学後の学修	14
1	各学部が主に対応する科類	15
2	前期課程における科類の特徴	15
(1)	文科一類	15
(2)	文科二類	15
(3)	文科三類	15
(4)	理科一類	15
(5)	理科二類	15
(6)	理科三類	15
XIV	各学部の推薦要件・面接方法等（詳細）	16
1	法学部	16
2	経済学部	18
3	文学部	20
4	教育学部	22
5	教養学部	23
6	工学部	25
7	理学部	29
8	農学部	31
9	薬学部	33
10	医学部医学科	35
11	医学部健康総合科学科	38
参考	過去の推薦入試入学者等	40

個人情報の取扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「東京大学の保有個人情報の適切な管理のための措置に関する規則」に基づいて取り扱います。

- 1 出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務を行うために利用します。
- 2 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
- 3 上記1及び2の各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。については、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供します。
- 4 国公立大学の分離分割式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、受験番号、大学入試センター試験の受験番号、合否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願の国公立大学に送付します。
- 5 出願に当たって知り得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収関係の業務を行うために利用します。

I 東京大学推薦入試のアドミッション・ポリシー

1 東京大学の使命と教育理念

1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野を持った市民的エリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養と更に豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずで、本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

2 期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していかうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

3 推薦入試の基本方針

東京大学の推薦入試は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。

推薦入試による選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、若しくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。東京大学は、推薦入試で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

II 令和2年度推薦入試実施日程

日 程	項 目
令和元年 10月16日（水）～11月6日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット出願登録 ※出願に当たって、志願者がインターネットを利用して志願者情報等を登録する必要があります。
11月1日（金）～6日（水）必着	<ul style="list-style-type: none"> ・出願受付（出願書類・資料の郵送受付）
12月2日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次選考結果発表（本学ウェブサイト及び本学携帯電話サイトに掲載） ・学校長及び志願者宛に「結果通知書」を送付 ・第1次選考合格者に東京大学推薦入試受験票等送付 ※第1次選考合格者は、大学入試センター試験成績請求票を12月20日（金）までに提出。
12月14日（土）・15日（日）	面接等実施 ※学部ごとの日程の詳細は8ページ参照
12月20日（金）	大学入試センター試験成績請求票提出期限
令和2年 1月18日（土）・19日（日）	大学入試センター試験実施
2月12日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・最終合格者発表（本学ウェブサイト及び本学携帯電話サイトに掲載） ・学校長及び志願者宛に「結果通知書」を送付
2月13日（木）～19日（水） （郵送により手続）	入学手続

Ⅲ 出願に当たっての注意事項

1 本学一般入試（前期日程）との併願について

- ・ 推薦入試に出願しても、本学が実施する一般入試（前期日程）への出願は可能です。ただし、別途出願手続を行う必要があります。詳細は「令和2年度東京大学入学者募集要項」を確認してください。なお、推薦入試に合格し、2月19日（水）までに入学手続を行った者は、一般入試（前期日程）を受験してもその合格者となりません。

2 他の国公立大学との併願について

- ・ 本学を含め、国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願できるのは、1つの大学・学部です。また、本学の推薦入試に出願した者は、他の国公立大学のAO入試に出願することはできません。
- ・ 推薦入試に不合格となった場合に備えて、別途、国公立大学・学部（※）の一般入試に出願することができます。つまり、「前期日程」で試験を実施する大学・学部から1つ、「後期日程」で試験を実施する大学・学部から1つの合計2つの大学・学部に出願することができます。なお、本学では、「後期日程」試験は実施していません。

※ 独自の日程で入学者選抜を行う公立大学・学部については、公立大学協会ウェブサイトを（<http://www.kodaikyo.org/>）を参照。

3 大学入試センター試験について

- ・ 志願者は、令和2年度大学入試センター試験のうち、志望する学部が指定する教科・科目の全て（「Ⅶ 入学者選抜方法」を参照）を受験してください。なお、本学では大学入試センター試験の過年度の成績は利用しませんので、令和2年度大学入試センター試験を必ず受験してください。

4 提出書類・資料について

- ・ 提出書類・資料に不備がある場合は受理しません。
- ・ 出願手続後は、いかなる理由があっても、提出書類・資料の変更は認めません。
- ・ 受理した提出書類・資料は、いかなる理由があっても返却しません。
- ・ 出願手続に不正の事実があった場合には、入学許可の後であってもこれを取り消します。
- ・ 所定の方法（9～10ページ「Ⅸ 出願期間・出願の流れ等」を参照）によらずに提出された書類・資料は受理しません。

5 後期課程への進学について

- ・ 本学に入学を許可された学生は、教養学部にも所属して前期課程2年間の学修をした後、後期課程へ進学します。
- ・ 推薦入試による入学者が後期課程で進学する学部・学科等は出願時の志望により決定されます。ただし、前期課程の修了要件を満たす必要があります。

6 障害等のある入学志願者について

- ・ 本学では障害等のある者が、受験上及び修学上不利になることがないように、必要な配慮を行っており、そのための相談を常時受け付けています。受験上の配慮については、内容によって、対応に時間を要することもありますので、出願する前のできるだけ早い時期に東京大学推薦入試事務室まで相談してください。

相談の結果、受験上の配慮が必要であると判断される場合には、本学所定の申請書、医師の診断書等必要書類の提出により、本学でその内容を審査の上、それぞれの障害の種類・程度に応じた受験上の配慮を決定します。また、必要な場合には、志願者等との面談等を行うこともあります。

IV 出願資格

出願できる者は、次のいずれかに該当する者とします。

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和2年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和2年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者

V 募集人員

令和2年度推薦入試において、入学を許可する学生の募集人員は、100人程度です。

なお、各学部等の大まかな募集人員は、次のとおりです。また、合格者が募集人員に満たない場合には、原則として、残余の募集人員は、各学部（医学部においては、医学科、健康総合科学科）が主に対応する科類（15ページ）の一般入試（前期日程）の募集人員に繰り入れます。

法学部	10人程度	経済学部	10人程度
文学部	10人程度	教育学部	5人程度
教養学部	5人程度	工学部	30人程度
理学部	10人程度	農学部	10人程度
薬学部	5人程度		
医学部	5人程度（うち、医学科3人程度、健康総合科学科2人程度）		

VI 推薦要件等

学校長が本学に推薦できる人数は、次の要件の全てに該当する男女各1人までとします。男女いずれかのみが在学する学校においては、推薦できる人数は1人となります。なお、同一の志願者を複数の学部推薦することはできません（医学部においては、医学科と健康総合科学科の併願も不可）。

- 学部ごとに定める推薦要件（16～39ページ）に該当し、当該学部の学問分野に対する強い関心及びこれを本学で学ぶ積極的な意欲を持ち、学校長が責任をもって推薦できる者
- 合格した場合、必ず入学することを確約できる者
- 令和2年度大学入試センター試験のうち、志望する学部が指定する教科・科目の全てを受験する者

※ 推薦要件に関して個別の判断（審査）を要する事前の問い合わせ（具体的な活動実績や受賞歴、語学力、学校成績等が推薦要件に該当するか等の質問）には答えません。

VII 入学者選抜方法

合否判定は、提出書類・資料、面接等、及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価して行います。具体的には、次の(1)～(3)のとおり実施します。

- (1) 提出書類・資料により第1次選考を実施します。
- (2) 第1次選考合格者に対して学部ごとに面接等を実施します。
面接等の実施方法の詳細については、16～39ページを参照してください。
- (3) 提出書類・資料、面接等、及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価した上で、最終合格者を決定します。

なお、大学入試センター試験は、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判断する観点から、概ね8割以上の得点であることを目安とします。

1 大学入試センター試験を受験を要する教科・科目

志願者は、令和2年度大学入試センター試験のうち、志望する学部が指定する教科・科目の全てを受験してください。指定された教科・科目を1つでも受験していない場合は、合格者にはなりません。また、教育学部及び教養学部については、次の(1)、(2)のいずれで受験をしても構いません。

(1) 法学部, 経済学部, 文学部, 教育学部, 教養学部

(5教科8科目又は6教科8科目)

教科	科目	科目選択の方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	左の4科目のうちから2科目を選択
公民	『倫理, 政治・経済』	
数学	『数学Ⅰ・数学A』	必須
	『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	左の3科目のうちから1科目を選択 ただし, 『簿記・会計』, 『情報関係基礎』を選択できる者は, 高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者だけです。
理科	「物理基礎」(「物理」) 「化学基礎」(「化学」) 「生物基礎」(「生物」) 「地学基礎」(「地学」)	左の基礎を付した4科目のうちから2科目を選択 ただし, 「基礎を付していない科目」を2科目選択した場合には, 「基礎を付した科目」を選択したものとみなします。(注)
外国語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の5科目のうちから1科目を選択 なお, 『英語』についてはリスニングの成績を含むものとし, 筆記(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計得点(250点満点)を200点満点に換算して利用します。

(注) (1) 「基礎を付した科目」とは, 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎を指します。

(2) 「基礎を付していない科目」とは, 物理, 化学, 生物, 地学を指します。

(3) 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎の4科目の中から2科目と, 物理, 化学, 生物, 地学の4科目の中から1科目を選択した場合には, 基礎を付した2科目を利用します。

(4) 物理, 化学, 生物, 地学の4科目の中から2科目を選択した場合には, 合計得点(200点満点)を100点満点に換算して利用します。

(2) 工学部, 理学部, 農学部, 薬学部, 医学部, 教育学部, 教養学部

(5教科7科目)

教科	科目	科目選択の方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	左の4科目のうちから1科目を選択 なお, 地理歴史及び公民の試験時間 において2科目を受験した場合には, 第1解答科目の成績を合否判定 に利用します。(注)
公民	『倫理, 政治・経済』	
数学	『数学I・数学A』	必須
	『数学II・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	左の3科目のうちから1科目を選択 ただし, 『簿記・会計』, 『情報関係基 礎』を選択できる者は, 高等学校又 は中等教育学校においてこれらの科 目を履修した者だけです。
理科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	左の4科目うちから2科目を選択
外国語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の5科目のうちから1科目を選択 なお, 『英語』についてはリスニング の成績を含むものとし, 筆記(200点 満点)とリスニング(50点満点)の合 計得点(250点満点)を200点満点に 換算して利用します。

(注) 「地理歴史, 公民」の試験時間に2科目を受験した場合において, 前半の60分間で解答した科目を第1解答科目, 後半の60分間で解答した科目を第2解答科目とといいます。(詳細は, 大学入試センターウェブサイト <https://www.dnc.ac.jp/> 等を参照してください。)

なお, 第1解答科目で本学が指定していない科目を受験した場合には, たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも, 合格者となりません。

2 各学部の面接等の日程と会場

各学部（医学部においては医学科または健康総合科学科）の面接等は、次の日程で実施します。文学部は、第1次選考合格者全員に12月14日（土）及び15日（日）の両日にわたって、工学部は、12月14日（土）及び15日（日）のいずれか学部が指定する日に面接等を行います。

試験会場 キャンパス	学部・学科	日 程
本 郷	法学部	12月14日（土）
	経済学部	12月14日（土）
	文学部	12月14日（土）・15日（日）の両日
	教育学部	12月15日（日）
	工学部	12月14日（土）・15日（日）のいずれか学部 が指定する1日
	理学部	12月14日（土）
	農学部	12月15日（日）
	薬学部	12月14日（土）
	医学部医学科	12月14日（土）
	医学部健康総合科学科	12月14日（土）
駒 場	教養学部	12月14日（土）

※ 集合時間や会場建物等については、「東京大学推薦入試受験票」等送付時（12月2日（月）頃）にお知らせします。

VIII 各学部の教育研究と推薦要件・面接方法等

1 各学部の教育研究

各学部の教育研究の内容については、次の本学ウェブサイトを参照してください。

法 学 部	http://www.j.u-tokyo.ac.jp/
経済学部	http://www.e.u-tokyo.ac.jp/
文 学 部	http://www.l.u-tokyo.ac.jp/
教育学部	http://www.p.u-tokyo.ac.jp/
教養学部	http://www.c.u-tokyo.ac.jp/
工 学 部	https://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe/
理 学 部	https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/
農 学 部	https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
薬 学 部	http://www.f.u-tokyo.ac.jp/
医 学 部	https://www.m.u-tokyo.ac.jp/

2 各学部の推薦要件・面接方法等

各学部の推薦要件・面接方法等については、16ページ以降の詳細を参照してください。

Ⅹ 出願期間・出願の流れ等

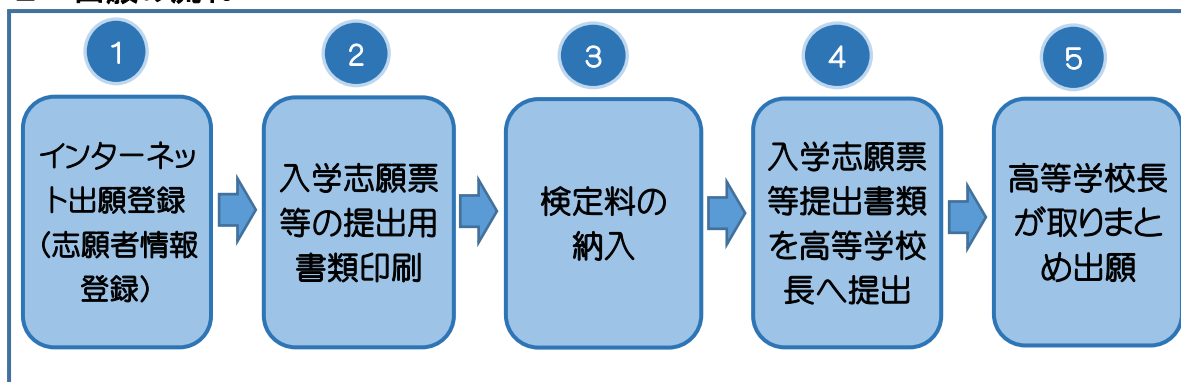
1 出願期間

インターネット出願登録：令和元年10月16日（水）12時頃～ 11月6日（水）17時

提出書類・資料の送付：令和元年11月1日（金）～ 11月6日（水）【必着】

※ インターネット出願登録を行っただけでは出願したことになりません。

2 出願の流れ



1 インターネット出願登録（志願者情報登録）

○ インターネット出願登録サイトは、10月16日（水）12時頃に、本学ウェブサイト（【URL】https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html）に掲載します。

○ 登録画面に従って、出願学部、志願者氏名、高等学校等名などの志願者情報を登録してください。

なお、志願者情報の登録では、途中で一時保存はできませんので、最後まで通して登録してください。

2 入学志願票等の提出用書類印刷

○ インターネット出願登録（①）後に表示される「提出用書類」（PDFファイル）を印刷してください。

【印刷する提出用書類】

・ 入学志願票

①で登録した内容を印刷したもの。写真（縦4cm×横3cm、上半身・正面・脱帽・背景無地のもので、最近3か月以内に撮影したカラー写真）を必ず貼付してください。

また、③のとおり、検定料支払い時に発行される領収書等のコピーを貼付してください。

・ 個人別成績通知用切手貼り付け用紙

個人別成績の通知を希望する場合は、送料分の切手（※）を貼付してください。

詳細は、13ページ「XI 3 個人別成績の通知」を参照してください。

※ 消費税率引上げに伴い郵便料金が改定される可能性があります。金額については、確定次第、本学ウェブサイトでお知らせしますので、必ずご確認ください。

3 検定料の納入

(支払方法等の詳細は、インターネット出願登録時に確認できます。)

- インターネット出願登録 (①) 後、指定された期限内 (出願登録完了時から48時間以内。出願締切日当日は17時00分まで) に、「コンビニエンスストア」、「ネットバンキング」、「Pay-easy」、「クレジットカード (VISA, MasterCardのみ)」のいずれかの方法で**検定料17,000円**をお支払ください。支払う際には、別途手数料がかかり、その手数料は志願者が負担することになります。
- 検定料を支払ったことがわかる書類 (領収書, ATM利用明細書, 決済完了後に送付されるメールなど) のコピーを、②で印刷した入学志願票に添付してください。
- 風水害等の災害により被災し、検定料の免除を申請する場合は、事前に推薦入試事務室 (nyuusi3.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp) へ連絡してください。
《参考》 風水害等の災害により被災した入学志願者の検定料の免除について
【URL】 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>
- 第1次選考不合格者に対しては、13,000円を返還します。返還手続の方法等については、12月2日 (月) 頃通知します。前述の場合を除いて、いかなる理由があっても検定料は返還しません。

4 入学志願票等提出書類を高等学校長へ提出

- ②で印刷した書類と、志願者が作成するその他の提出書類・資料を高等学校長へ提出してください。

5 高等学校長が取りまとめ出願

- 高等学校で作成する書類と④をあわせて、高等学校長から郵送してください。(志願者からの送付は受け付けません。)
- 郵送の際には「提出書類等送付用ラベル」(本学ウェブサイトに掲載。【URL】https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_26.html) を貼り付けた封筒に入れて送付してください。
- 2人分をまとめて郵送する場合は、1人分ずつ封筒に入れて封をしたものを、別の封筒に取りまとめて送付してください。
- 書留速達郵便で、9ページの「1 出願期間 (提出書類・資料の送付)」に記載された期間に必ず到着するように送付してください。ただし、11月7日 (木) 以降に到着したものは、11月5日 (火) までの消印があり、かつ、書留速達郵便で送られたものに限り受理します。
- 提出書類・資料の詳細は、11~12ページ「X 提出書類・資料」を確認してください。
- 受理後、本人及び学校長に受験番号を送付します。

【あて先】 〒113-8799 日本郵便株式会社本郷郵便局留
東京大学推薦入試事務室

3 注意事項

- インターネット出願登録は、登録完了前にブラウザを閉じたり、30分間操作しなかったりした場合、完了しません。始めから出願登録をやり直してください。
なお、前の画面に戻る際、ブラウザの「戻る」ボタンは使用しないでください。
- インターネット出願登録をする際は、ユーザ登録を行ってください。ユーザ登録を行うことで、出願登録完了後、登録した情報を確認することができます。
- 上記①～⑤の全てを行うことで、出願登録の手続は完了します。インターネット出願登録を行っただけでは出願したことになりません。

X 提出書類・資料

- ・出願に当たって提出を要する書類は、学部（医学部においては、医学科または健康総合科学科）ごとに次の表で○を付したものです。
- ・志願学部等に応じ、次の書類を取りまとめ、学校長から提出してください。
- ・提出書類の様式は、本学ウェブサイトに掲載のもの（【URL】https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_28.html）を使用してください。
- ・提出書類は、特に指定のない限り日本語で作成してください。
- ・各書類において求める志願者の学習成果等については、原則として、高等学校等在学中のものとしします。
- ・調査書や推薦書を含め、全ての書類・資料について厳封の必要はありません。
- ・提出された書類・資料は一切返却しません。
- ・所定の方法（9～10ページ「IX 出願期間・出願の流れ等」を参照）によらずに提出された書類・資料は受理しません。

	入学志願票 (注①)	調査書 (注⑧)	志願理由書 (様式1) (注②⑥⑦)	学校長からの推薦書 (様式2) (注②⑥⑦)	学習状況調査票 (様式3) (注②⑥⑦) 調査票	提出資料一覧 (注②③⑥)	学部が求める書類・資料 (注③④⑤⑥)
法学部	○	○	○	○	—	○	○
経済学部			○	○	○	○	○
文学部			○	○	—	○	○
教育学部			○	○	—	○	○
教養学部			○	○	○	○	○
工学部			○	○	—	○	○
理学部			○	○	—	○	○
農学部			○	○	○	○	○
薬学部			○	○	○	○	○
医学部医学科			○	○	○	○	○
医学部健康総合科学科			○	○	○	○	○

(注)

- ① 入学志願票は、インターネット出願登録で入力したデータを印刷したものに、写真（縦4 cm×横3 cm、上半身・正面・脱帽・背景無地のもので、最近3か月以内に撮影したカラー写真）及び検定料支払い時に発行される領収書等のコピーを貼付し、支払完了日を記載した上で提出してください。
- ② 志願理由書、学校長からの推薦書、学習状況調査票、提出資料一覧は、本学ウェブサイトに掲載の様式（【URL】https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/undergraduate/e01_28.html）を使用してください。様式は、学部（医学部は学科）ごとに異なりますので注意してください。
- ③ 学部が求める書類・資料は、学部（医学部は学科）ごとに異なります。詳細は、16～39ページを確認してください。学部が求める書類・資料は、提出資料一覧（学部ごとに様式あり）を一番上に付けて、ホッチキス留めするか、ダブルクリップなどでまとめて提出してください。
- ④ 学部が求める書類・資料（論文、表彰状、新聞や雑誌記事、国際通用性のある入学試験の成績、語学力等の証明書、コンクールやコンテストの成績等）の原本を提出できない場合は、コピーを提出してください。提出するコピーには、必ず高等学校等による原本証明を行ってください。

なお、インターネット画面を印刷したのもも原本証明が必要となります。

原本証明がされていない場合は、提出書類・資料として認めませんので注意してください。

【原本証明について】

当該書類・資料のコピーに、次の内容を直接明記・捺印してください。複数の書類・資料がある場合は、当該書類・資料名及び次の内容を明記・捺印した文書を添付することで、まとめて原本証明することができます。

- ・「原本と相違ない」旨を高等学校が証明していること（『原本と相違ないことを証明します』等の文言）
 - ・原本証明を行った日付
 - ・学校名
 - ・学校印
- ⑤ 国際通用性のある入学資格試験の成績、語学力等の証明書についても学校長が取りまとめて提出してください。発行機関からの直送は受け付けません。
原本が提出できない場合は、成績等が記載されたインターネット画面を印刷したもの等を提出しても構いません。その際は、④に従い、必ず高等学校等による原本証明を行ってください。
 - ⑥ 各様式の字数制限がない箇所では記入スペースが足りない場合には、記入欄の枠を拡大するか、別紙として添付してください。別紙を添付する場合は、記入欄にその旨を記入した上で、別紙の冒頭においてどの記入欄に対応するものであるかを明示してください。
 - ⑦ 各様式はバラバラにならないよう、様式ごとにホチキス留めにしてください。（左上方1箇所留め）
 - ⑧ 調査書は、各高等学校で使用している様式で提出してください。厳封の必要はありません。

XI 合格者発表

1 第1次選考の結果発表・通知

令和元年12月2日（月）15時頃に、第1次選考合格者の受験番号を本学ウェブサイト及び本学携帯電話サイトに掲載します。

併せて、学校長及び志願者宛に「結果通知書」を簡易書留郵便で送付します。また、第1次選考合格者には、「結果通知書」のほか、「東京大学推薦入試受験票」、「大学入試センター試験成績請求票（国公立推薦入試用）貼付台紙」、「受験者心得」及び「入学手続要領」を、令和元年12月2日（月）頃に送付します。

このうち、「大学入試センター試験成績請求票（国公立推薦入試用）貼付台紙」については大学入試センターから12月中旬頃送付される「大学入試センター試験成績請求票（国公立推薦入試用）」を貼付し、令和元年12月20日（金）必着で、次のあて先へ送付してください。

【あて先】 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学 推薦入試事務室

2 最終合格者発表・通知

令和2年2月12日（水）12時頃に、最終合格者の受験番号を本学ウェブサイト及び本学携帯電話サイトに掲載します。併せて、学校長及び志願者宛に「結果通知書」を簡易書留郵便で送付します。

3 個人別成績の通知

個人別成績の通知を希望する者は、出願の際、「個人別成績通知用切手貼り付け用紙」の所定欄に送料分（※）の切手（簡易書留はがき郵送用で本人宛に送付のため）を貼付してください。切手を貼付していない場合及び切手額が不足している場合は、「成績通知不要」として処理します。

個人別成績は通知を希望した本人に、令和2年4月中旬以降に郵送します。

住所を変更する場合は、最寄りの郵便局の窓口に「転居届」を必ず届けてください。

また、推薦入試の合格者は本学の一般入試（前期日程）を受験してもその合格者とはならず、成績もつきません。したがって、推薦入試の合格者で、本学の一般入試（前期日程）試験に出願し、一般入試（前期日程）の個人別成績の通知を希望した者には、一般入試（前期日程）成績通知のために貼付された切手を返却します。

※ 消費税率引上げに伴い郵便料金が改定される可能性があります。金額については、確定次第、本学ウェブサイトでお知らせしますので、必ずご確認ください。

XII 入学手続

最終合格者は、13ページ「XI 1 第1次選考の結果発表・通知」に記載の「入学手続要領」に同封されている「入学手続書類」を以下の期間中に必ず到着するように、書留速達郵便で送付することで入学手続を完了してください。以下の期間内に入学手続を完了しない場合は、本学の推薦入試合格者としての権利を失います。

なお、本学に入学手続を行った者は、これを取り消して他の国公立大学・学部に入學手続を行うことはできないので注意してください。また、入学手続を行った者は、他の国公立大学・学部の一般入試を受験しても、その合格者とはなりません。

【入学手続期間】 令和2年2月13日（木）～2月19日（水）（郵送により手続）

【あて先】 〒113-8799 日本郵便株式会社本郷郵便局留
東京大学推薦入試事務室

※ 推薦入試の合格者が、特別の事情により本学に入學することが困難となった場合は、当該者の推薦を行った学校長からの「入学辞退願」を令和2年2月19日（水）12時までに推薦入試事務室に提出し、許可を得なければなりません。許可されなかった場合若しくは、入学手続を行わなかった場合は、他の国公立大学・学部の一般入試を受験しても、その合格者とはなりません。

XIII 入学後の学修

推薦入試による入学者は、入学後、文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類の6つの科類のうち、志望学部が合格発表時に個別に指定する科類に分かれ、教養学部にも所属して前期課程の学修を行います。前期課程修了後は、出願時に志望した学部・学科等へ進学します。

前期課程においては、推薦入試による入学者について、学生の志望分野に対する関心や学ぶ意欲にきめ細かく応えることが可能となるよう、早期に専門教育に触れる機会*の提供や、学修について個別に助言・支援する教員の配置などの措置を講じます。

※ 早期に専門教育に触れる機会については、学部毎に内容が異なります。16ページ以降の各学部の「(3) 推薦入試入学者に対する教育方針」をご確認ください。なお、当該欄において「受講」及び「履修」と記載しているものは単位の取得を前提としますが、「参加」と記載しているものは必ずしも単位の取得を伴いません。

1 各学部が主に対応する科類

法学部	・・・	文科一類
経済学部	・・・	文科二類
文学部	・・・	文科三類
教育学部	・・・	文科三類又は理科一・二類
教養学部	・・・	文科三類又は文科一・二類，理科一類又は理科二類
工学部	・・・	理科一類又は理科二類
理学部	・・・	理科一類又は理科二類
農学部	・・・	理科二類又は理科一類
薬学部	・・・	理科二類又は理科一類
医学部医学科	・・・	理科三類
医学部健康総合科学科	・・・	理科二類

2 前期課程における科類の特徴

(1) 文科一類

法と政治を中心にして社会科学全般の基礎を学び，関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め，人間と社会について広い見識を養います。

(2) 文科二類

経済を中心にして社会科学全般の基礎を学び，関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め，人間と組織について広い見識を養います。

(3) 文科三類

言語，思想，歴史を中心にして人文科学全般の基礎を学び，関連する社会科学と自然科学の分野にわたって理解を深め，人間と文化的・社会的営為について広い見識を養います。

(4) 理科一類

数学，物理学，化学を中心にして数理科学・物質科学・生命科学の基礎を学び，自然の基本法則に関する探究心を養い，科学や技術と社会の関わりについても理解を深めます。

(5) 理科二類

生物学，化学，物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び，自然の諸法則に関する探究心を養い，科学や技術と社会の関わりについても理解を深めます。

(6) 理科三類

生物学，化学，物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び，人間についての探究心を養い，生命と社会の関わりについても理解を深めます。

XIV 各学部の推薦要件・面接方法等（詳細）

1 法学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	<p>現代社会，とりわけグローバルな場でリーダーシップを発揮する素質を持つ学生。すなわち，優れた基礎的学力を備えるとともに，現代社会のかかえる諸問題に強い関心を持ち，実社会の様々な事象から解決すべき課題を設定する能力，さらには他者との対話を通じて，その課題の解決に主体的に貢献する能力を有する学生。</p>
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	<p>グローバルな場で活躍するために基礎となる幅広い視野をそなえ，法的思考と政治学的識見の基礎を身に付けた人材の養成をめざす教育を行います。</p> <p>本入試で入学した学生に対しては，学生の関心に応じて発展的内容の学習を可能にするため，教養学部前期課程において法学部専門科目の受講を許可し，法学部進学後に法学部卒業に必要な単位として認定します（前期課程の単位とはなりません）。法学部3年生以降においては大学院（法学政治学研究科）の授業科目の受講を許可し，法学部の選択科目として単位認定します^{※a}。また，履修について個別的に助言・支援する教員を配置します。</p>
(4) 推薦要件	<p>以下の全てに該当する者とします。</p> <p>① 学業成績に秀でていること。(第3学年第1学期に履修した全教科（美術などの実技技術科目を含む）の学業成績に基づいて，志願者が文系・理系を含めた学年全体で上位概ね5%以内であること)</p> <p>② 現実の中から本質的な問題を発見し，独創的な形で課題を設定する能力を有すること。</p> <p>③ 問題の解決に向けてイニシアティブを発揮できること。</p> <p>④ 異なる文化的背景や価値観を有する他者とのコミュニケーション能力に優れていること。</p>
(5) 学部が求める書類・資料	<p>各学部共通に求める調査書等のほか，志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に証明する資料^{※b}。</p> <p>例えば，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在学中に執筆した論文で，志願者の問題発見能力・課題設定能力を証明するもの^{※c} ・ 社会に貢献する活動の内容を具体的に証明する資料（表彰状，新聞記事など） ・ 留学経験など，志願者が異なる文化的背景や価値観への理解を有することを示す資料（留学の事実を証明する資料，外国人との交流や支援活動を行ったことを示す第

	<p>三者の推薦状など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際通用性のある入学資格試験における優秀な成績を証明する資料 (国際バカロレア, SATなど) ・ 外国語に関する語学力の証明書 (TOEFL, 英検, IELTS, TestDaF, DALF, HSKなど) <p>などです。</p> <p>以上はあくまでも例示であり, 志願者が本学部の推薦要件に合致することを証明できる資料であれば, 上記以外の資料でもかまいません。</p>
(6) 面接等の方法	<p>グループ・ディスカッション及び個別面接を行います。グループ・ディスカッションは, その場で与えられたテーマについて, 少人数のグループで議論してもらい, 論理的思考力, 発想力, コミュニケーション能力などを審査します。個別面接では, 提出書類・資料に関連する質問などを通して, 法や政治に対する関心と, それを学ぶ能力とを確認します。</p>

※a 一部の科目には受講できないものもあります。

※b 志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に証明する資料は, 日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし, 日本語と英語以外の言語の場合は, 志願者の責任において日本語で全訳を添付するとともに, 翻訳者または翻訳した機関を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。

※c 論文は, 何らかの意味で社会に関わるテーマを扱うものとしします。法学や政治学に関するものである必要はありません。高校の授業の一環として作成された論文であるかどうかは問いません。また, 校内・校外のコンクールで入賞した論文であるかどうかも問いません (入賞した事実があれば賞状のコピー等を添付してください)。グループで作成した論文は認められません。論文の分量の目安は, 日本語の場合, 図表部分を除いて6,000字以上としますが, 分量よりも内容が重視されます。参照した文献やインターネット情報等については, 論文末尾に「参考文献」として一括提示するだけでなく, 引用箇所にもその都度出典・情報源を注記してください。

2 経済学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	いずれかの分野において卓越した能力を有し、その才能を生かして新しいビジネスまたは社会の枠組みを創造しようとする高い志を持つ学生。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	それぞれの学生の才能を生かすために必要な、経済社会の複雑な諸現象を体系的に理解する能力を養成します。前期課程において、履修に関する相談や支援をする学部教員を配置し、必要に応じて本郷での講義・演習への参加を許可します。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① いずれかの分野で高等学校等の生徒として卓越した才能を有すること（必ずしも学術分野に限らないが、上の「求める学生像」にふさわしい能力であること）。 ② 他者との対話性に優れ、経済分野に強い関心を有すること。 ③ 高等学校等において英語、数学、地理歴史・公民のうちいずれかの2教科において成績が優秀 ^{※a} であること（地理歴史・公民はいずれかの1科目のみを対象とする）。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件の①に該当すると判断できる客観的根拠を示す資料（少なくとも1つ、複数提出可）の提出を求めます。 例えば、 ・ 全国レベルあるいは国際レベルのコンテストやコンクール（例えば数学オリンピック）での入賞記録あるいは論文採択記録 ・ 英語その他の外国語に関する語学力の試験（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSKなど）において高得点を取ったこと示すもの ・ 留学を含む様々な国際的活動で、その内容が第三者によって高く評価されたものについて、その詳細や評価内容を記した文書（新聞記事など） ^{※b} などです。 以上はあくまでも例示であり、本学部の推薦要件に合致することを証明できる資料であれば、上記以外の資料でもかまいません。 ※ 上記の資料と併せて、本人が執筆した特に優れた論説や論文などを添付することも可能です。
(6) 面接等の方法	個別面接を行います ^{※c} 。

※a 各教科・科目について高等学校等内で上位10%に入る成績をおさめているこ

と。

※b 本人，所属校，受け入れ校以外の第三者が評価したもの。例えば，新聞の記事になった事例や現地の公的機関で表彰された事例など。留学を伴わない国内での国際的活動を含む。

※c 面接時間は30分程度を予定しています。面接時に課題遂行能力を試すための課題を課す場合があります。

3 文学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	人間のさまざまな精神的営み（言語・文学・思想・芸術等）や，人間の織りなす社会の歴史と現代の諸問題に関する探究心に富み，自らの考えたことを口頭発表や論文などを通して他者に伝える能力を有し，将来，社会的な貢献が期待できる学生。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	入学当初の高い勉学意欲と人間・社会に対する関心を維持し，より高度な専門的知識に裏付けられた学修へとつなげるために，随時指導・助言を行うとともに，前期課程から必要に応じて文学部の講義・演習の参加を認めます。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① 学業成績に秀でていること。 ② 人文社会系諸学に関連する分野において，卓越した能力を有することを示す実績があること，あるいは課外活動やボランティアなどの社会貢献活動において，優れた成果をあげたこと。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか，論文（日本語で書かれたもの）の提出を求めます。提出論文では，在学中に「総合的な学習の時間」や自主的な研究活動，社会貢献活動などを通じて学んだことをもとに，文学部でさらに追究したいと考えていることについて論じてください ^{※a} 。 上記の論文のほかにも，推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す書類があれば，提出してください。 例えば， ・ 自主的な研究活動または社会貢献活動の具体的内容や成果を示す資料 ・ 雑誌等に発表された論文 ^{※b} ・ 外国語に関する語学力の証明書（TOEFL，英検，IELTS，TestDaF，DALF，HSKなど） ・ 何らかの賞を受けた場合は，それを証明する書類などです。
(6) 面接等の方法	1日目に小論文を課し，2日目に面接を行います。 面接は，志願者が提出した論文や「志願理由書」にもとづき，在学中の自らの学習・研究活動または社会貢献活動等の内容，及び文学部で学びたいことに関して10分以内のプレゼンテーションを行い，それについて，面接教員との質疑応答を行います ^{※c} 。

※a 論文について，

- ① 参照した先行文献やインターネット情報等に関しては，末尾に「参考文献」として一括掲示するだけでなく，個々の参照箇所，脚注などを用いて適

切に参照元の情報を提示してください。

- ② なるべくワープロ・ソフトを用いて作成してください。分量は，注や参考文献一覧も含めて4,000～8,000字程度を目安とします。

※b 雑誌等に発表された論文について

論文はコピーでもかまいませんが，掲載誌の表紙と発行年等を示す奥付のコピーも添えてください。また，日本語・英語以外の言語で執筆されたものについては，全文の日本語訳も添付してください。

※c プレゼンテーションについて

資料を提示したい場合は，事前に作成したポスター1枚に限り使用を認めます（ポスター上に別紙を貼付することはできません）。ポスターのサイズは最大で縦120cm，横85cm（A0サイズ相当）とします。

4 教育学部

(1) 募集人員	5人程度
(2) 求める学生像	自ら設定した課題を探究する卓越した資質・能力を有する学生。これまでに取り組んだ探究学習は特に教育分野に限定しないが、なぜ教育学部を志望するのかについて明確な考えをもっていることを求めます。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	発達・教育に関する諸現象についての理解を深め、研究する能力を身に付けるため、前期課程から、教育学部専門科目を必要に応じて受講できるものとし、教育学部進学後に教育学部卒業に必要な単位として認定します。また、履修について個別に助言・支援するアドバイザー教員を配置します。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① 本学のカリキュラム履修に必要な、教科の基礎学力があること。 ② 探究学習の卓越した実績・能力を、論文、作品、発表等を通じて示すことができること。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当することを示す客観的根拠となる以下の資料の提出を求めます。 ・ 在学中に作成した論文、作品、発表の内容を示す資料等で志願者の卓越した探究能力を示すもの。 ・ 上記に関して、国際的若しくは全国的なコンクールやコンテストでの受賞歴、あるいは、学会の高校生セッション等での発表経験などがある場合、それを証明する資料。
(6) 面接等の方法	発表と個別面接を行い、総合的に審査します。発表は、出願時に提出した資料（論文、作品、発表等に関するもの）の内容について行うものとします ^{※a} 。発表に続いて、他の受験者も参加して質疑応答を行います。個別面接では、面接官と「自ら設定した課題を探究する卓越した資質・能力」、「教育学部を志望する理由」などについて質疑応答を行います。

※a 発表資料を掲示する場合、ポスター1枚に限り認めます。ポスターのサイズは、A0判（縦120cm，横85cm程度）とします。なお、発表時に原稿を読み上げたり、手元にメモ等を置いて参照しても構いませんが、それらを資料として配布することはできません。

5 教養学部

(1) 募集人員	5人程度
(2) 求める学生像	文系理系を問わず、複数の学問分野を横断する関心や新しい分野に挑戦する意欲を持ち、将来にわたって、人類社会の直面する諸問題の解決を目指す高い志を持つ学生。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	多様な世界への好奇心を絶やさず、現代社会の諸課題に取り組む能力をそなえた学生を育成します ^{※a} 。 ① 1年次からの海外研修を奨励し、さまざまな支援を行います。 ② 後期課程につながる専門的学習について助言・支援する教員を、入学者の志望分野に合わせて個別に配置します。 ③ 科目担当教員の助言に基づいて、教養学部専門科目を前期課程において早期履修することを認めます。履修した科目は、教養学部後期課程進学後に卒業に必要な単位として認定します。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者としします。 ① 自ら課題を発見して探究する卓越した能力を持つ者。 ② 高等学校等で履修した2つ以上の科目（志望分野に関連する科目を含む）で卓越した能力を持つ者。 ③ 国際的な活動についての経験、若しくは関心を有する者。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠として、以下のいずれかの資料（複数可） ^{※b} の提出を求めます。 ・ 在学中に執筆した課題論文等 ^{※c} ・ 科学オリンピックなど志望分野にかかわる各種コンテストの成績 ^{※d} ・ 外国語に関する語学力の証明書（TOEFL, 英検, IELTS, TestDaF, DALF, HSKなど） ^{※e} ・ 国際通用性のある入学資格試験の成績を証明する資料（国際バカロレア, SATなど） ・ その他、特筆すべき活動の成果 ^{※f}
(6) 面接等の方法	面接による審査を行います ^{※g} 。

※a 英語コースである国際日本研究コースならびに国際環境学コース志望者については、入学後、前期課程では学部英語コース特別選考による入学者を対象とする国際教養コースのカリキュラムではなく、一般入試による入学者を対象とするカリキュラムを履修します。

※b 志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に証明する資料は、日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし、日本語と英語以外の言

語の場合は、志願者の責任において日本語で全訳を添付するとともに、翻訳者または翻訳した機関とその連絡先を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。

- ※c 当該論文等の性質（授業の課題として執筆されたものか、課外活動に関連して執筆されたものか等）を説明する資料（校長または担任教員等による）を添付してください。グループによる成果の場合は、本人の貢献部分についての説明も加えてください。
- ※d 当該コンテストの概要を説明する資料及び成績を証明する資料を添付してください。グループによる成果の場合は、本人の貢献部分についての説明も加えてください。
- ※e 国際日本研究コース、国際環境学コース志望者は英語能力を示すことが望まれます。
- ※f 国際活動や地域・社会貢献活動など、特にアピールしたいものがある場合は、その概要と成果を説明する資料を添付してください。
- ※g 面接試験当日、面接に先立って、原則として志望学科・コースの学問領域に関する問題意識や必要な能力を問う小論文等を課します。なお、(5)で「外国語に関する語学力の証明書」を提出した場合には、外国語の面接を行うことがあります。

6 工学部

(1) 募集人員	30人程度
(2) 求める学生像	<p>以下のいずれか（または複数）の能力，ならびに，社会の多様な課題を科学技術を通じて解決することへの強い関心・意欲を持ち，専門知識を駆使して社会課題解決やイノベーションを先導することに主体的に貢献することが期待できる学生。</p> <p>① 理数系分野における特に秀でた能力。</p> <p>② 明晰で柔軟な思考力を有し，かつ自ら課題を設定し幅広く学修する能力。</p> <p>③ 異なる思考様式や文化的背景を持つ人々と協力して，グローバルな問題を発見し解決できる能力。</p>
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	<p>工学部は，豊かな教養，国際性，科学技術に対する体系的な知識を身につけ，研究，開発，設計，生産，計画，経営，政策提案等において，工学的手法を活用して人類社会の持続と発展に貢献できる指導的人材を養成することを目的としています。</p> <p>出願時には別表の5つの学修領域のうちの1つを選択します^{※a}。</p> <p>前期課程においては，学修領域に対応して学生の志望分野につながる基礎的学習を行います。大学での学習を通じて工学の多様性を俯瞰し，自らが志望する分野の概要とこれを学ぶ意義を深く理解し，必要となる基礎学力を身につけることができるよう，領域ごとに学習について個別に助言・支援する教員（アドバイザー教員）を配置します。</p> <p>教養学部前期課程において工学部専門科目の受講を許可し，工学部進学後に工学部卒業に必要な単位として認定します（前期課程の単位とはなりません）。また「主題科目」等により，後期課程ならびに大学院につながる，工学専門教育を早期に受ける機会を設けます。</p>
(4) 推薦要件	<p>高等学校等の学習内容，特に理数系教科について秀でた基礎学力を有しており，上記「(2) 求める学生像」にふさわしいことを客観的に示す推薦事由^{※b}を有すること。</p>

<p>(5) 学部が求める書類・資料</p>	<p>各学部共通に求める調査書等のほか、志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に示す以下の資料^{※c}</p> <p>① 上記「(2)求める学生像」に記載されている要件を客観的に示す説明書^{※d}</p> <p>② 本人の能力をよく知る人物（高等学校等の内外を問わない）による推薦書2通以内^{※e}</p> <p>※ 英語に関する語学力の証明書（TOEFL, 英検, IELTSなど）、国際通用性のある入学資格試験における成績を証明する資料（国際バカロレア, SATなど）があれば添付してください。なおこれらは上記①の「(2)求める学生像」にふさわしいことを客観的に示す推薦事由には含めません。</p>
<p>(6) 面接等の方法</p>	<p>提出書類・資料の内容の妥当性、推薦要件に示すような特に秀でた能力を面接により評価します。</p>

※a 以下の表を参考にして出願する領域を選択してください。

別表：学科と学修領域の関連

- ◎ この領域に強く関連する学科
- この領域に関連する学科
- この領域にある程度関連する学科

	領域に特徴的なキーワード	複数の領域にまたがるキーワード	学 科 名																		
			社会基盤学科	建築学科	都市工学科	機械工学科	機械情報工学科	航空宇宙工学科	精密工学科	電子情報工学科	電気電子工学科	物理工学科	計数工学科	マテリアル工学科	応用化学科	化学システム工学科	化学生命工学科	システム創成学科			
領域 1	建築, 都市, 社会システム, 経営	エネルギー, システム, 地球・環境, 人間・生物, 数学, 物理	◎	◎	◎								□							○	
領域 2	機械, 熱・運動, 設計, 乗物		□	□	□	◎	□	○	○	□	○			□							○
領域 3	数理, 情報, 知能, ロボット		□	□	□	□	◎	□	○	◎	□		◎	□			□				○
領域 4	物性, 電子, ナノ・マイクロ, 分子		□	□		□	□			□	□	○	◎	□	○	○	○	○	□		
領域 5	化学, 有機, バイオ, 細胞				□	□				□		□		□	○	○	◎	◎			

※ 各学科の教育内容については、工学部ホームページ (<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe/>) を参照してください。受験時に選択した学修領域に関わらず、2年次の進学先の選択では、工学部の学科を自由に選ぶことができます。

※b 推薦事由の例

在学中の特に優れた成績、在学中に志願者が主導的な役割を果たしたことにより顕著な成果を挙げた活動（社会問題解決に取り組んだ社会貢献活動・国際的活動、部活動等）、大会・コンクールでの入賞につながった活動、特色ある研究活動・創造活動、顕著な成果をあげた数学・物理・化学・生物などでの活動等

※c 志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に示す資料は、日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし、日本語と英語以外の言語の場合は、志願者の責任において日本語で全訳を添付するとともに、翻訳者または翻訳した機関を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。

※d 説明書では指定された書式を使用して、A4用紙4ページ以内にまとめてください。具体的な制作物等がある場合には、設計図面、プログラム、論文等を別途添付しても構いません。

※e 推薦書の作成者は、本人の能力を客観的に評価できる方であれば高等学校等の内外を問いませんが、2親等内の親族は除きます。

推薦書は指定された書式を使用して作成してください。

7 理学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	自然科学において卓越した能力を有する学生を求めます。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	<p>自然科学への関心と知的冒険心を育み、未知の問題に対する解決の知恵と手段を体得して人類社会の持続的・平和的發展に貢献できる、創造力と表現力を備えたグローバルリーダーを育成します。</p> <p>推薦入試入学者向けに各学科の教員が専門科目の早期学習や研究分野選択に向けた個別指導を行います。また早期から希望研究室で最先端研究の現場に参加できる機会として、学部前期課程に研究室実習制度を設けます。</p> <p>学部前期課程2年次及び後期課程には、理学部が主催する国際交流プログラム（海外の研究施設訪問や学生交流など）への参加に優先措置を設けるなど、国際体験を奨励します。</p>
(4) 推薦要件	<p>自然科学に強い関心を持ち、自然科学の1つ若しくは複数の分野において、卓越した能力を有することを示す実績があること（実績の例：科学オリンピック＜数学、物理、化学、生物学、地学、情報＞、高校生科学技術チャレンジ、日本学生科学賞など、国内外で開催された各種コンテストへの入賞、商品レベルのソフトウェア開発経験、科学雑誌への論文発表など）。</p> <p>なお、国際活動、社会貢献活動、芸術・文化、スポーツなどでの意欲的な活動やリーダーシップを発揮した実績も評価に加味します（実績の例：在任中に顕著な活動を行った生徒会会長、全国大会レベルでの入賞を果たした部やクラブで主導的な役割を果たしたものなど）。</p>
(5) 学部が求める書類・資料	<p>各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す資料のうち、少なくとも1つ（複数提出可）の提出を求めます。例えば、表彰状／認定証のコピー、受賞論文、開発したソフトウェアの概要資料、科学雑誌に掲載された論文など^{※a}です。</p> <p>※ 英語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTSなど）があれば添付してください。</p>
(6) 面接等の方法	<p>日本語により個別面接を行います。志望学科の順位を踏まえ^{※b}、各学科で要求される基礎学力や思考力、コミュニケーション能力を問います。</p>

※a 査読を受けて雑誌に掲載された論文は受賞論文に準じるものとして扱います。共同受賞の場合は、志願者の貢献度を説明する文章を提出してください。開発したソフトウェアの概要資料には、ユーザ数・活用事例等、利用実績のわかる資料を添付してください。そのほか、国際活動、社会貢献活動、芸術・文化、スポーツなどでの意欲的な活動やリーダーシップを発揮した実績がある場合は、

活動実績がわかる方からの推薦状（日本語若しくは英語で記載されたもの）を提出してください。

※b 面接の結果, 複数の学科において最終合格の判断がされる場合もあり得ます。
また, 第一志望の学科に合格するとは限りません。

8 農学部

(1) 募集人員	10人程度
(2) 求める学生像	動物・植物・微生物がもつ多様な機能に興味を持ち、それらを深く究明し、さらにそれらを応用して社会に役立たいという強い意欲を有する学生。すなわち、自ら主体的に学ぶ姿勢を持ち、生命に対する理解をもとに、食料・生物資源・生態系等に関わる諸問題の解決にグローバルな視点から貢献しようとする学生。
(3) 推薦入試入学 者に対する教育 方針	<p>農学を構成する基礎・応用諸科学に関する専門教育を段階的・体系的に行い、農学に課せられた諸問題の解決に必要とされる高度な専門知識と幅広い視野を有し、社会の要請に応えることのできる人材を育成することを目的とします。</p> <p>前期課程においては農学部の附属施設等を利用した早期実践教育プログラム（フィールド学習など）を優先的に提供します。また、必要に応じて農学部専門科目の受講を認め、農学部進学後に農学部卒業に必要な単位として認定します（前期課程の単位とはなりません）。後期課程においては大学院授業科目への参加を認めます。加えて、学修について個別に助言する教員を配置し、前期課程・後期課程を通して一貫した教育支援を行います。</p>
(4) 推薦要件	<p>以下の全てに該当する者とします。</p> <p>① 高い基礎学力を有する成績上位者であること。</p> <p>② 農学とその関連分野^{※a}に関する特記すべき推薦事由を有すること。</p>
(5) 学部が求める 書類・資料	<p>各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の①～③の資料のうち、少なくとも1つ（複数提出可）の提出を求めます。提出に当たっては、以下の項目の概要の説明書^{※b}を求めます。</p> <p>① 研究成果あるいは論文^{※c}</p> <p>② 活動実績等の資料^{※d}</p> <p>③ 各種コンテスト参加者はその成績^{※e}</p> <p>なお、英語及びその他の外国語に関する語学力の証明書（TOEFL, 英検, IELTSなど）があれば添付してください。</p>
(6) 面接等の方法	提出書類・資料の内容の妥当性、コミュニケーション能力等を面接により評価します。面接の一部として、農学とその関連分野に対する興味と理解力を評価します。

※a 「農学とその関連分野」とは、農学及びそれを構成する基礎・応用諸科学を指し、生物学をはじめ、農業・食料・生物資源・環境等に関連する広範な分野

を含みます。

※b 各項目の説明書は、資料が複数であっても項目ごとに、800字程度で作成してください。また、個人で行ったものかチームで行ったものか、チームの場合はその中での役割等を明示してください。

※c 例として、以下のような資料を提出してください。

- ・ 研究成果を証明する資料や論文等の成果物
- ・ 各種学会・研究会での発表を証明する要旨等の資料

※d 例として、以下のような資料を提出してください。

- ・ 「総合的な学習の時間」等での活動成果
- ・ インターンシップ、ボランティア、農業実体験、国際会議への参加等の活動を証明する資料
- ・ 農学、生物学もしくは農業・食料・生物資源・環境等の問題に関連する各種の検定試験等の成績など

※e 例として、以下のような資料を提出してください。

- ・ 国内大会の成績、国際大会の準備チームに選出されたか、国際大会に選手として出場したか、国際大会に出場した場合の成績など

9 薬学部

(1) 募集人員	5人程度
(2) 求める学生像	最先端の薬学研究を将来大学院で学び、薬学研究を通じて新たな生命科学と創薬科学を国際的に牽引する人材や、薬剤師として医療高度化を推進する意思のある人材を求めます。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	化学・生物・物理・創薬・医療を含む幅広い薬学分野におけるキャリアの方向性を早期に明確化するために、以下のプログラムを提供します。 ① 薬学部の研究室において、前期課程の夏季休業期間での1ヶ月程度の実習の参加を認めます。 ② 4年次に、大学院の授業の参加を認めます。
(4) 推薦要件	以下の全てに該当する者とします。 ① 学業に秀でて特に優れた科学能力を有すること。 ② 薬学研究に強い興味と意欲を持つこと。 ③ 自発的に目的を設定して学ぶ能力を有すること。 ④ 自分の考えが論理的に伝えられるコミュニケーション能力・文章構成能力に優れていること。
(5) 学部が求める書類・資料	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の資料のうち、少なくとも1つ（複数提出可）の提出を求めます。 ・ 科学に関連する、学会・研究会での発表を証明する資料、もしくは作成した論文 ^{※a} ・ 科学オリンピックなど各種コンテストにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する資料 ^{※b} ・ 国際的な活躍を裏付ける資料（TOEFL、英検、IELTSなどで高い英語力を証明する資料、留学経験 ^{※c} や国際活動を証明する資料 ^{※d} ） ・ 社会貢献活動、芸術・文化、スポーツなどでの意欲的な活動やリーダーシップを発揮した実績 ^{※e} 。
(6) 面接等の方法	個別面接を行います ^{※f} 。

※a 以下の書類・資料を提出してください。

- ・ 該当する資料もしくは論文
- ・ 担当教員による評価書
- ・ A4用紙2ページ程度の資料・論文の要旨及び共同発表の場合は、志願者の貢献度を説明する文章（図表含む）

※b 共同受賞の場合は、志願者の貢献度を説明する文章を提出してください。

※c 以下の書類・資料を提出してください。留学を証明する書類及び留学先教員の推薦書は、日本語以外で書かれていても差し支えありません。ただし、日本語と英語以外の言語の場合は、志願者の責任において日本語で全訳を添付する

とともに、翻訳者または翻訳した機関を明記してください。翻訳について大使館等の公的証明を付す必要はありません。

- ・ 留学を証明する書類
 - ・ 留学先教員の推薦書
- ※d 以下の書類・資料を提出してください。
- ・ 国際活動を証明する書類
 - ・ A4用紙 2ページ程度の活動概要及び志願者の活動を説明する文章
- ※e 以下の書類・資料を提出してください。
- ・ 活動を証明する書類
 - ・ A4用紙 2ページ程度の活動概要及び志願者の活動を説明する文章
- ※f 高等学校等における特筆すべき活動，薬学部の志望理由，大学・大学院卒業後の自己の将来像に関して発表します。志願者は必要に応じて，A4用紙2ページ程度の資料を配布してもかまいません。発表内容と提出書類・資料に基づき，本人の学力・思考力・コミュニケーション能力等を審査します。

10 医学部医学科

(1) 募集人員	3人程度
(2) 求める学生像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命現象のしくみの解明，疾病の克服及び健康の増進に寄与する医学研究を推進するため，推薦入試枠を医学研究者養成枠と位置づけ，最先端の医学・生命科学研究を担う国際的研究者を育成するために活用します。 ・ そのために，未知の生命現象の発見や革新的な医療につながる研究を長期的な視野のもとに実行する意欲と能力を持つ学生を受け入れ，サマープログラム等を活用した研究体験，学部進学後のPh. D. -M. D. コース（医学部在学中の大学院進学制度）への参加などを通じてリサーチマインドと研究能力を育成します。 ・ また医学を学ぶにあたってはバランスのとれた人格と高い基礎学力が要求されるため，これらの点で基準を満たす学生を選抜します。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	<p>在学中に生命現象のしくみの解明，疾病の克服及び健康の増進に寄与する医学研究について幅広い知識と経験を身に付け，卒業後は最先端の医学・生命科学研究を担う国際的研究者へと発展する人材を育成します。</p> <p>1. 教養学部前期課程在籍時：以下の教育プログラムを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医学部が駒場キャンパスで提供する「メディカルバイオロジー入門コース」などの講義への参加。 ② 本郷キャンパスにおける分子細胞生物学の教科書を利用した少人数教育への参加。 ③ 夏季休業期間等を利用した医学部研究室での実習への参加。 <p>2. 医学部医学科進学後：以下の①のカリキュラムに3年生，4年生として参加し，その後に②のカリキュラムに参加することを原則とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① MD研究者育成プログラム：2007年より開始した研究志向の学生を対象とした教育プログラム。通常医学科カリキュラムと並行して研究室での実験を行い，研究マインドを養成することを目的とします。海外短期留学，研究に必要な英語トレーニングなども実施。他大学との学生交流のための行事を開催。 ② Ph. D. -M. D. コース：医学部在学中に大学院に進学し，学位取得後に医学部に戻るコース。早期に本格的な研究体験を積むことを目的とします。本コース在学中は奨学金を支給します。

(4) 推薦要件	<p>以下の全てに該当する者とします。</p> <p>① 高い基礎学力とバランスのとれた人格を持つこと。</p> <p>② 生命科学・医学研究への意欲と能力を持つこと。</p> <p>③ 医学部進学後に研究者養成のための特別カリキュラムへの参加を望むこと。</p> <p>④ 自然科学の領域においてきわめて高い能力を持つこと、あるいは非常に優れた語学力（英語力）とそれに伴う豊富な国際経験を持つこと。</p>
(5) 学部が求める書類・資料	<p>各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の資料のうち、いずれか1つ（複数提出可）の提出を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本生物学オリンピック、国際生物学オリンピック、高校生科学技術チャレンジ、Intel International Science and Engineering Fair (Intel ISEF)、全国物理コンテスト、国際物理オリンピック、全国高等学校化学グランプリ、国際化学オリンピックなど各種コンテストにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する資料^{※a} ・ きわめて高い英語の語学力（TOEFL iBT 100点以上あるいはIELTS 7点以上に相当する英語力）及び豊富な国際経験を示す資料^{※b}
(6) 面接等の方法	<p>高等学校等からの推薦書類に記載された能力や経験を確認するためのプレゼンテーションを行います^{※c}。その内容及び能力の確認のための質疑応答などを行い、適性を判断します。</p> <p>在学中には通常の医学科カリキュラムに加えて研究者育成のための特別プログラムに参加し、学業と研究活動を両立させる必要があります。この観点から、学力を判断するための大学入試センター試験の基準点は医学部医学科の場合には780点程度とします。</p>

※a これらの大会に関連した以下の情報について記載した資料を提出してください。

- ・ 参加したコンテストの名称、参加年度
- ・ 国内大会の成績
- ・ 国際大会の準備チームに選出されたか
- ・ 国際大会に選手として出場したか
- ・ 国際大会に出場した場合の成績

参加、成績等の証明書が存在する場合にはそのコピーを添付してください。

※b 以下の2種類の資料を提出してください。

- ・ 語学力については、TOEFLあるいはIELTSの成績を示す書類を添付してください。それ以外の検定試験の場合には、TOEFL iBT 100点以上あるいはIELTS 7点以上という基準と同等であることが明確である書類を添付してください。

- ・ 国際経験についてはA 4用紙3 ページ以内（およそ5,000字以内）で具体的な経験を本人が説明する文章を添付してください。
- ※c 面接審査に関連して以下の準備を行い、資料を提出してください。
- ・ 志願者は事前にポスターを作成し、面接審査の説明に使用してください（ポスターの規格は学会等で一般的に用いられるポスターに準じた規格となる予定です。サイズはA 0：縦120センチ，横85センチ程度を予定しています）。面接ではポスターを掲示し，それを使って高等学校等在学中に行った主に自然科学に関連した活動と大学入学後の抱負について10～20分程度で説明してもらいます。ポスター及びプレゼンテーションの使用言語は，原則として日本語ですが，英語も使用できます。発表内容に関連した知識・能力について確認するための質問等を行う予定です。グループで行った活動の場合，本人の貢献した部分が明確になるように説明してください。
 - ・ ポスターの内容を事前に把握するため，ポスター発表の概略をA 4用紙5 ページ以内で説明したものを出願時に提出してください。面接の際に使用するポスター自体を出願時に提出する必要はありませんが，図・表・写真などを出来るだけ使用して，ポスターの内容をわかりやすく説明するよう工夫してください。

11 医学部健康総合科学科

(1) 募集人員	2人程度
(2) 求める学生像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆衛生学, 看護学, 国際保健学, 基礎生命科学等の, 人の健康をさまざまな分析法で探求する「ヘルスサイエンス」の研究におけるグローバルリーダーとなる人材。 ・ 科学的・分析的思考能力に加え, 統合力, マネージメント力, 発信力を持つ人材。 ・ 人間を敬い, いのちを尊ぶバランスのとれた人格で, 健康関連事象に対する探究心をもつ学生。
(3) 推薦入試入学者に対する教育方針	<p>医療保健分野におけるグローバルリーダーとなる人材を育成します。特に推薦入試入学者の個性的な知的探究心や行動力を伸ばすよう配慮するとともに, 健康を守り高めるための生物的・社会的諸原則を理解し, 各種施策を開発する能力, 保健・看護サービスを提供する能力を育成します。</p> <p>1. 教養学部前期課程在籍時</p> <p>① 理科二類に在籍し, 一般学生と同様の科目を履修するとともに, 健康総合科学科が駒場で開講している総合科目D (人間・環境)「看護学概論」「ヘルス・サイエンス概論」などへ参加します。</p> <p>② 1年次より学科の教員(チューター)に, 補習等に関する相談ができます。</p> <p>③ 夏季休業・秋季休業期間等を利用して研究室訪問・実習を行い, 研究室が行っている研究課題に参加できます。</p> <p>2. 健康総合科学科進学後</p> <p>① 長期休業を利用した, 国内外におけるインターンシップ(厚生労働省, 医学部附属病院・介護老人保健施設など)に参加し, 教員から助言を受けることができます。</p> <p>② 関連領域を含めた大学院のプログラム(グローバルヘルスなど)に参加できます。</p>
(4) 推薦要件	<p>以下の全てに該当する者とします。</p> <p>① バランスの取れた人格であること。</p> <p>② きわめて高い基礎学力を有すること。</p> <p>③ グローバルにコミュニケーションできる語学力(英語力)を持つこと。</p> <p>④ チャレンジ精神に富み, 忍耐力, 柔軟性を持ち, 自己を高めることのできる精神力を持つこと。</p> <p>⑤ 自然科学領域におけるきわめて高い能力及び科学的探究心を持つこと。</p> <p>⑥ チームの調整力があり, リーダーシップをもつこと。</p>
(5) 学部が求める書類・資料	<p>各学部共通に求める調査書等のほか, 上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の資料のうち, いずれか1つ(複数提出可)の提出を求めます。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高いチャレンジ精神を示す課外活動体験についての資料（数か月以上の国際ボランティアなど）^{※a} ・ 高いリーダーシップ，チームの調整力を示す組織のリーダー的役割（生徒会長，文化祭運営委員長など）の経験を証明する資料^{※b} ・ 学内外における研究発表会・コンテストなどにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する資料^{※c} ・ きわめて高い英語の語学力を示す資料（TOEFL iBT 100点以上あるいはIELTS 7点以上に相当する英語力）^{※d}
(6) 面接等の方法	<p>高等学校等からの提出書類・資料に記載された能力や経験を確認するためのプレゼンテーションを行います^{※e}。その内容及び能力の確認のための質疑応答などを行い，適性を判断します。</p>

※a A 4用紙5ページ以内（およそ 8,000字以内）で具体的な体験内容を本人が説明する文章を添付してください。参加の証明書等が存在する場合にはそのコピーを添付してください。

※b A 4用紙3ページ以内（およそ 5,000字以内）で具体的な経験内容を本人が説明する文章を添付してください。活動内容を示す資料（広報等）があればコピーを添付してください。

※c これらに関連した以下の情報について記載した資料を提出してください。

- ・ 参加したコンテストの名称，参加年度
- ・ 学内外の研究会やコンテストにおける成績（個人かチームかについて明記してください）

参加，成績等の証明書が存在する場合にはそのコピーを添付してください。

このほかに，学業や研究活動に対して表彰（都道府県レベル以上）を受けた場合は，受賞内容を記載した資料と，証明書のコピーを添付してください。

※d 語学力については，TOEFLあるいはIELTSの成績を示す書類を添付してください。それ以外の検定試験の場合には，TOEFL iBT 100点以上あるいはIELTS 7点以上という基準と同等であることが明確である書類を添付してください。

※e 面接審査に関連して以下の準備を行い，資料を提出してください。

- ・ 志願者は事前にポスターを作成し，面接審査の説明に使用してください（サイズはA 0：縦120センチ，横85センチ程度を予定しています）。面接ではポスターを掲示し，それを使って高等学校等在学中に行った自然科学・健康科学・人文科学等に関連した活動と大学入学後の抱負について10分程度で説明してもらいます。ポスター及びプレゼンテーションの使用言語は，原則として日本語ですが，英語も使用できます。発表内容に関連した知識・能力について確認するための質問等を行う予定です。グループで行った活動の場合，本人の貢献した部分が明確になるように説明してください。
- ・ ポスターの内容を事前に把握するため，ポスター発表の概略をA 4用紙3ページ以内（日本語，図・表の使用可）で説明したものを出願時に提出してください。面接の際に使用するポスター自体を出願時に提出する必要はありません。

過去の推薦入試入学者等

平成31年度

学部	募集人員	志願者	第1次選考合格者	最終合格者	辞退者	入学者
法学部	10人程度	22	16	10	0	10
経済学部	10人程度	2	1	1	0	1
文学部	10人程度	8	7	3	0	3
教育学部	5人程度	24	12	8	0	8
教養学部	5人程度	23	11	4	0	4
工学部	30人程度	48	42	22	0	22
理学部	10人程度	32	20	9	0	9
農学部	10人程度	11	8	4	0	4
薬学部	5人程度	9	4	1	0	1
医学部 医学科	3人程度	5	5	4	0	4
医学部 健康総合 科学科	2人程度	1	1	0	0	0
計	100人程度	185	127	66	0	66

平成30年度

(人)

学部	募集人員	志願者	第1次選考合格者	最終合格者	辞退者	入学者
法学部	10人程度	26	18	11	0	11
経済学部	10人程度	10	6	4	0	4
文学部	10人程度	18	10	5	0	5
教育学部	5人程度	11	7	6	0	6
教養学部	5人程度	24	12	5	0	5
工学部	30人程度	43	39	16	0	16
理学部	10人程度	24	22	10	0	10
農学部	10人程度	11	11	7	0	7
薬学部	5人程度	6	6	3	0	3
医学部 医学科	3人程度	5	4	2	0	2
医学部 健康総合 科学科	2人程度	1	0	0	0	0
計	100人程度	179	135	69	0	69

平成29年度

(人)

学部	募集人員	志願者	第1次選考合格者	最終合格者	辞退者	入学者
法学部	10人程度	25	25	13	0	13
経済学部	10人程度	14	6	3	0	3
文学部	10人程度	13	10	4	0	4
教育学部	5人程度	6	5	5	0	5
教養学部	5人程度	24	5	1	0	1
工学部	30人程度	42	38	23	0	23
理学部	10人程度	25	21	10	0	10
農学部	10人程度	11	11	7	0	7
薬学部	5人程度	3	2	2	0	2
医学部 医学科	3人程度	8	4	2	0	2
医学部 健康総合 科学科	2人程度	2	2	1	0	1
計	100人程度	173	129	71	0	71

平成28年度

(人)

学部	募集人員	志願者	第1次選考合格者	最終合格者	辞退者	入学者
法学部	10人程度	24	24	14	0	14
経済学部	10人程度	7	7	4	0	4
文学部	10人程度	10	10	3	0	3
教育学部	5人程度	9	6	4	0	4
教養学部	5人程度	17	11	2	0	2
工学部	30人程度	47	44	24	0	24
理学部	10人程度	32	24	11	0	11
農学部	10人程度	12	12	9	0	9
薬学部	5人程度	4	4	3	0	3
医学部 医学科	3人程度	9	5	2	0	2
医学部 健康総合 科学科	2人程度	2	2	1	0	1
計	100人程度	173	149	77	0	77

- 大学情報については、以下のサイトをご覧ください。



<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

本学ウェブサイト。大学全般の情報を発信しています。



<https://kimino.ct.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学をもっと知りたい高校生・受験生のためのサイト。

- 推薦入試に関する照会先 …… 東京大学推薦入試事務室

nyuusi3.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp